回覧「かけはし」2021年（令和3年）9月5日

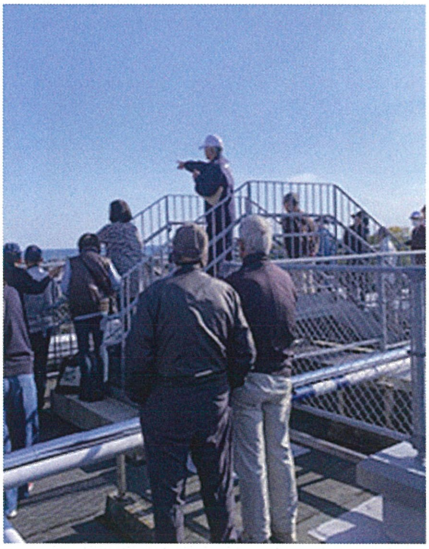
［第27号］

かけはし

若松地域づくり協議会

地域で実践「災害に備えた減災」訓練を

日頃やっていないことは有事でもできない!!



若松小学校屋上避難場所の見学会

地球の温暖化等による気象変動を背景に、自然災害が多発、激甚化(げきじんか:規模が大きく、広がる)しています。

10数年間を振り返ると東日本大震災・熊本地震等の、ゆれ・津波・土砂被害、房総半島台風・東日本台風や集中豪雨・長雨に伴う洪水・土砂被害、突風(竜巻)などにより家屋の倒壊、流失や亡くなったり怪我をした人が多数います。

30年以内に高確率で東海・東南海・南海地震が来ると言われている中で、自然災害を対岸の火事ですませることはできません。“地域の皆さまと「災害に備えた減災」について一緒に考えて行動しましょう“と、今号を企画しました。

平時からの話し合いや研修・訓練への参加を

これまでの災害対策は、被害をゼロにする「防災」が長く叫ばれてきました。しかし、激甚化している災害の防災対策を完全に行うことは難しいと言わざるをえません。

従って、日頃からの備えや心構え、訓練が被害を最小にするという「減災」の考え方を学び、それに基づく行動が極めて重要になっています。

災害が発生した時、できる限り被害を少なくするために、平時から自分自身、家族でできること、町内や地域できる減災対策を話し合い、研修会、訓練にも参加をしながら有事に備えることが大切です。

災害時に必要な3つの役割「自助」「共助」「公助」

災害をできるだけ軽減するためには、まず自分自身の身を守ること(自助)、そして、自分自身や家族が無事であることが前提のうえで、近所や地域の人たちを助けること(共助)ができます。もちろん、抜本的な防災対策、長期化する避難対策等は行政の力(公助)が必要になります。

1 一人ひとりの意識、行動がスタート(自助)

災害を最小限におさえるためには、一人ひとりが減災に対する意識を高め、事前対策を講じていくことが重要です。例えば、鈴鹿市から配布されているハザードマップ(危険と思われる箇所や避難場所などを地図にまとめたもの)を家族で確認しましょう。家の中でどこが一番安全か?避難場所、避難経路はどこか?避難する時は、誰が何を持ちだすか?家族が離れている場合の連絡方法や集合場所等を日頃から話し合い確認しておくことも大事です。

巣ごもり生活の時間が増えている今こそ、家族でできる減災対策を話し合いましょう。

2 地域の絆づくりが活きる(共助)

近所や地域の人たちとは日頃から声をかけあい、いざという時に助けあえる人間関係を築いておくことが重要です。

現在は、コロナ禍で若松地区内、町内会で集い、語る機会(場づくり)が減っていますが、日常の挨拶などで地域コミュニティーはつくれます。

また、一人暮らし、高齢者などへの声かけも、意識しながら継続しておこなっていくことも大事です。

毎年行われている中若松町の防災訓練

3 減災の研修(講座)・訓練は活かされる

自治会、町内会、地域づくり協議会、公民館が行う防災・減災研修や訓練などにも参加しましょう。

教えてもらったこと、訓練により体験したことは、災害発生時に必ず活かされます。

実施行事の内容は事前に回覧「かけはし」、「若松公民館だより」等でお知らせしますのでご参加ください。

公民館かけはし事業で「災害に備える」研修・訓練を計画

10月2日(土)13:30～15:00 多目的ホール 講師:日本赤十字社三重県支部

11月6日(土) 9:30～11:00 多目的ホール 講師 鈴鹿市防災危機管理課

※詳細の案内は「若松公民館だより」(9月5日発行)を参照願います。

若松地域づくり協議会 TEL (059) 385-1919